

1

(記述題)

2

I ウ
II ア
III エ

(2 完答)

3 その人
4 過去

5 I ク
A ク
B イ
C エ

(5 I 完答)

5 II 記憶の変容

6 ぶつ
単語

(6 完答)

7 中心となる

8 エ

9 A イ
B イ
C エ

10 a 分類
b 機会
c 周辺

2

1 a 気配
b 案外
c 利口

(1 c 「利巧」「懶巧」も可)

2 A S
B K
c K
3 た
だ
さん

(3 完答)

4 I イ
II エ
III ア
5 (記述題)
6 イ
7 グ
リ
ー

8 I 深み
II 優し
9 自分の部
10 空港

1

1 さ
ま
ざ
ま
な
し
ち
ユ
エ
ー
シ
ヨ
ン
に
応
用
で
き
る

(同意可)

2

5 巨人の声が聞き取れるとわかって安心し、仕事に前向きになっている。

(同意可)

配点	
1 9・10 2 1・2	各2点×12=24点
1 1 2 5	各6点×2=12点
その他	各4点×16=64点
100点	

1 文章のはじめの方にある問いかけは、その文章全体の話題を示すことが多いので、問いかけの内容を特に意識しながら話の流れを追いかけていこう。ここでは直後にたとえ話が始まるが、いったん話をまとめて「記憶は、未来に役立てるための…」で始まる段落ではまだこの問いかけの答えを述べていない。さらに「憧れの人と話した記憶」のたとえ話が続いたあとに、「ひとまとまりに保管しない方が…」の段落において問いかけの答えを述べている。

2 (Ⅰ) …たとえ話が始まるころなのでウの「たとえば」が入る。(Ⅱ) …Ⅱの前が「似たような出来事があったときに、より適切な対処方法を考えることができます」と書かれているのに対し、あとでは「同じように話したときにしか、活用することができません」と、似たような出来事に応用できないことが書かれているのでアの「しかし」が入る。(Ⅲ) …「思い出の一部だけが思い出せない」ということに、「元々の曲自体(Ⅱ思い出)が変わってしまう」ことがつけ足されているのでエの「しかも」が入る。

3 記憶として保管する情報が――線②の前のどこからどこまでかをたどればよい。指示語の指している内容を答えるときは必ずあとを読んで指示語の内容がどのようなものか見当をつけておこう。

4 「記憶の本来の目的」については直後の段落でまとめられている。とくに接続語などはなくても、個別的な話から一般的な話に移る流れに気をつけよう。

5 すべて何をたどえたものが問われているので、答えは記憶に関わる言葉になることに注意しよう。BとCは――線④の直後に書かれていた。Bの「オーケストラが演奏する曲そのもの」が「ひとまとまりの記憶」であることから、奏者が一人一人バラバラになったAはクの「バラバラにされた記憶の要素」であると見当をつけることができる。Ⅱはオーケストラのたとえの最後に「このようなことを繰り返していくと元々の曲自体が変わってしまうのです」とあり、その後も「プライミング効果」や『フラッシュバルブ』に伴う変容」の話を通じて記憶が変容する実例があげられている。

6 直後の具体例と対応させる問題である。交通事故の動画を見せるときに、記憶に影響を与えたものが何かを追いかけていく。ここでは質問をされるときに「当たった車のガラス」と言われたか、「激突した車のガラス」と言われたかで結果が変わっていた。

7 『フラッシュバルブ』に伴う変容」と言葉だけ見るとまるで見当がつかないが、同じ段落で説明されていることを答えればよい。段落の終わりに、「フラッシュバルブ記憶では…変容してしまうことがある」と――線⑥と同じ言葉を使つてまとめられていた。

8 Aは記憶とは要素ごとにバラバラに保管されるものであったので、「ひとまとまりの記憶となつて」がおかしい。イは「フラッシュバルブ記憶」が「印象に残る出来事だからこそ、一部の記憶が変容してしまうこと」であったことから間違っている。ウは「一部の記憶が変容してしまうこともある」と知っていれば、誰かと記憶の食い違いで気まずくなってしまうことを避けられる」という話で、「取り込む情報の取捨選択」とは関係ない。エはオーケストラのたとえ話が記憶の変容について書かれていた部分なので正しい。

9 Aの「そうだ」は物事の様子や状態を表す「様態」の用法である。Bの「ない」は打ち消しの助動詞の「ない」である。「ない」を「ぬ」に代えることで判別できる。Cの「られる」は「可能」の意味を表している。

10 a「分類」は「類」のへんの部分を「数」のようにしてはいけない。b「機会」は「機械」などの同音異義語と区別しよう。c「周辺」は「そのまわりの」という意味である。「周」を「週」としないように気をつけよう。

2

1 a「気配」は「酉」の六面目を忘れないように気をつけよう。「己」の部分も「S」を反転させたようなくねした字にしてはいけない。b「案外」は「予想と違って」という意味である。「案」を「安」としてはいけない。c「利口」はよく聞く言葉だが、書き取りとなるとはっと思い出せなかつたかもしれない。漢字での書き方も覚えておこう。

2 尊敬語は相手を敬う言葉、謙譲語は自らへりくだつて言う言葉、丁寧語は「です、ます、ございます」や「おはし」などの「お」である。それ以外にも相手側の行動などには尊敬語を、自分側の行動などには謙譲語を使うことを知っておこう。Cの「お目にかかる」は「会う」の謙譲語である。「見せる」の謙譲語である「お目にかかる」ときちんと区別しておこう。

3 物語に登場する主要な人物の特徴は、外見についても内面についても読みながらしっかりと印象づけていこう。

4 (Ⅰ) …やわらかい髪の毛が巻いている様子なのでイの「もやもや」が入る。(Ⅱ) …鞆の表面に傷がついている様子なのでエの「ざらざら」が入る。(Ⅲ) …聞き取れない声で話している様子なのでアの「もごもご」が入る。

5 このときの心情については直後に書かれているが、「安堵(Ⅱ安心)し」ただけでは直後に書かれているように「元気よく返事した」ときの気持ちとしては十分ではない。「元気よく」につながるような心情を足しておきたいところである。

6 ――線③の前に、「そう言ったあと」とあるので、ここでの心情はすぐ前の会話文とつながりがあるものが答えとなるが、イには「巨人の言葉につられて」とあり、これが会話のつながりを表している。エはリンドウの花が私の用意したものであるといいきれないので不適當である。

7 巨人が胸ポケットにつけている羽根のことである。巨人の外見については「その間ようやく…」ではじまる段落に書かれていた。

8 Ⅱの四字の方はすぐ前に「二人だけの時、巨人の声が…いかに優しい声か」という形で書かれていた。Ⅰの六字は近くにないが、私と巨人が「二人だけの時」に、巨人がどのように話していたかをたどっていけばよい。

9 行動に表れているところなので、文章の終わりの方にある「傷ついたりしない」や「よく分かっているからだ」や「大事な使命を帯びた天使にでもなった気持ちになれる」は答えとして不適當である。巨人からもらったリンドウを自分の部屋に戻ってからガラスコップに挿したという行動は巨人の好意を受け入れたことを暗示している。

10 物語を読むときはいつも場面に分ける意識を持つことが大切である。この文章では、空港で巨人をむかえる場面、ホテルの部屋で巨人と話す場面、それからの巨人と私の様子が書かれた場面の三つに分かれていた。